

日本学術会議 国際対応分科会 自己点検報告書

国際対応分科会(小委員会)名 IUPAB分科会 更新日 2011/12/6
(2009/05/01の形式)

国際学術団体に関する事項

国際学術団体名

(和文) 国際純粋応用生物物理学連合
(欧文) International Union of Pure and Applied Biophysics
(略称) IUPAB

日本学術会議加入年(西暦) 1961 年

運営組織の名称・役員の構成等

運営組織の名称(欧文) IUPAB Council

	会長	会長代理/次期会長	前会長	事務局長
(氏名)	Gordon Roberts	Zihe Rao	永山國昭	Cris dos Remedios
(国)	英国	中国	日本	オーストラリア

役員選出方法の概要(120文字程度で記載)

3年毎のIUPAB Congressと同時に開かれるIUPAB総会にてIUPAB加盟団体が指名する選挙人による選挙により選出される。選挙人の人数は加盟団体のカテゴリーにより1人から3人の枠があり、カテゴリーは拠金額(750EUR、2,000EUR、4,500EUR)に依存する。

加入国・地域の数 50ヶ国

主要加入国(10ヶ国程度を列举)

米、英、日、独、伊、仏、カナダ、中国、ブラジル、ロシア

国際学術団体のホームページURL <http://iupab.org/>

国際学術団体の年間運営経費 80,000EUR

日本の分担予定額[事務局で記入] 504千円(2012年度)

国際学術団体の活動状況

総会・学術研究集会の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催地	参加者数	日本からの 参加者数	学術会議共催/ 協賛の有無
2011	17th IUPAB Congress	北京、中国	2500	100	無
2011	18th IUPAB 総会	北京、中国	57	4	無
2008	16th IUPAB Congress	Long Beach, USA	5000	50	無
2008	17th IUPAB 総会	Long Beach, USA	50	4	無
2005	15th IUPAB Congress	Montepellier, France	1300	70	無

運営に関する会議の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催場所 (機関等)	参加国数	日本からの 代表者名	学術会議の 代表派遣数
2011	56回、57回IUPAB理事会	北京	15	1	1
2010	55回IUPAB理事会	岡崎	13	1	○
2009	IUPAB常務理事会	北京、 (生物物理研究所)	5	1	○
2008	53、54回IUPAB理事会	Long Beach, USA	12	1	○
2007	IUPAB常務理事会	北京、 (生物物理研究所)	5	1	1

出版物等(主要な定期刊行物・不定期刊行物を刊行頻度とともに箇条書きで記載)

IUPAB News (毎年), Biophysical Reviews (Springer)

活動状況(各項目につき過去5年間の状況を120文字以内で記載)

国際機関等の提唱で行った活動
第7回ABA (Asian Biophysics Association) シンポジウムへの招待講演者推薦 (2009年12月)。第16回、第17回のIUPAB Congressでのシンポジウムセッションの提言とセッション講演者の推薦。この結果2011年10月30日—11月3日北京で開かれた第17回国際生物学会議に日本から25名の招待講演と100名の参加があった。またこの会議に日本生物物理学会は震災・若手支援を行い9人の旅費を工面した。
国際機関等への提言等
なし。
国際事業等への参加・実施等
北京開催第17回IUPAB Congressへの日本生物学会の協力体制。第8回ABAシンポジウムは2013年5月韓国開催予定。日本生物物理学会とアジアオセアニア地域生物物理学会の協力としてオーストラリア、イスラエルの研究者と生物物理学会年会における合同シンポジウムを開催。
全世界的/地域的研究課題への取組み
日本の生物物理研連及びIUPAB分科会と連動しアジア生物物理学連合(7団体)を2006年に立ち上げた。ABA参加学会は以下の通り: The Australian Soc. for Biophys., Inc., The Biophys. Soc. of China, Biophys. Soc. of R. O. C., Biophys. Soc. of Hong Kong, Indian Biophys. Soc., The Biophys. Soc. of Japan, The Korean Biophys. Soc. 第6回ABAシンポジウム(2009年1月・香港)には日本から50余名が参加した。第7回ABAシンポジウムは2011年1月末インドのデリーで開催され日本から20名が参加した。
発展途上国への対応

関連学術分野の動向と今後の重要課題(120文字以内で記載)

アジア特に東南アジアとイスラム圏での生物物理学の支援と興隆。中国と学問上の協力関係

国内における国際学術団体への対応状況

国際学術団体の役員就任状況(過去10年間・新しいものから遡って5件まで記載)

国際学術団体における 役職名	氏名	任期	
		開始年	終了年
IUPAB前会長	永山國昭	2011	2014
IUPAB会長	永山國昭	2008	2011
IUPAB副会長	永山國昭	2005	2008
IUPAB理事	永山國昭	2002	2005
IUPAB副会長	郷信弘	1999	2002

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名 IUPAB分科会

学術会議以外の国内対応組織・委員会等

日本生物物理学会運営委員会、アジア生物物理連合(ABA)日本事務局

国内の関連学協会等の状況(主要なもの5件まで記載)

学協会の名称	会員数	学協会のホームページURL
日本生物物理学会	3800	http://www.biophys.jp/index.php
日本結晶学会	1200	http://www.crsj.jp/
日本生理学会	3000	http://physiology.jp/
日本分子生物学会	16000	http://wwwsoc.nii.ac.jp/mbsj/
日本進化学会	250	http://sesj.kenkyuukai.jp

学術会議の国際対応分科会(小委員会)の活動状況

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名
所属分野別委員会

IUPAB分科会
基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同

分科会(小委員会)の構成

委員長	副委員長	幹事	
未定	未定	未定	

会員数	連携会員数	特任連携会員数
7	4	1

分科会(小委員会)の活動方針(箇条書きで120文字以内で記載)

IUPABでの学問的存在感を引き続き維持していく。ABA(アジア生物物理連合)を通じアジアでの生物物理学興隆に力を入れていく。生物物理学の学問的拠点をもっと明確に大学内に作り出していく。

今期の会議開催状況(開催日時の新しいものから遡って6回まで記載)

会議開催日時 (2009/05/01の形式)	主な審議事項・議題等
2011/9/10	<ul style="list-style-type: none"> ・学術会議と共催で学術フォーラム「生物に学ぶ柔軟なシステムの探索：ゆらぎと多様性をキーワードとして」を開催(名古屋大学) ・分科会開催し今後の方針を審議
2009/3/13	<ul style="list-style-type: none"> ・委員長、副委員長、幹事の選出 ・第21期の活動方針の決定 ・「日本の展望」について・IUPAB、ABA報告
2008/3/13	<ul style="list-style-type: none"> ・前回分科会の議事要旨の承認について ・IUPABの新しいTask Force "Single Particle Biophysics"の人選 ・ABAのIUPAB加盟に伴う750ユーロの拠出金 ・新学術会議委員 ・2008年の活動方針
2007/8/24	<ul style="list-style-type: none"> ・国内活動状況報告 ・国際活動状況報告; IUPAB(国際純粋・応用生物物理学連合)国際会議 ・ABA(アジア生物物理学連合)シンポジウム
2007/3/22	<ul style="list-style-type: none"> ・委員長および副委員長、幹事の選出 ・国際純粋・応用生物物理学連合(IUPAB)について ・アジア生物物理学連合(ABA)の立ち上げについて

日本における国際学術団体の活動の周知・広報の状況(箇条書きで120文字以内で記述)

日本生物物理学会説「生物物理」への寄稿
他学会紹介シリーズ、第16回IUPAB Congress (Long Beach、2008年2月)参加報告、第6回ABAシンポジウム(香港、2009年1月)参加報告、シリーズ「II 世界の生物物理学」(2010年1月、3月、5月)、第17回IUPAB Congress参加報告(2012年1月予定)、生物物理300号記念寄稿「世界と共に歩み進む学術」(2012年3月予定)

国際対応における国内学協会との連携状況(箇条書きで120文字以内で記述)

日本生物物理学会の各種プログラムを通じ、IUPAB Congressの学術プログラム作成に関し意見を広く集めている。

特記事項・国際委員会による指摘事項等への対応状況(箇条書きで120文字以内で記述)

なし

分科会・小委員会活動の自己評価等(箇条書きで120文字以内で記述)

IUPAB分科会の活動は国際対応が中心で国内活動が弱い。学術会議自体の広宣力が弱いので今後主要団体日本生物物理学会の学会誌への寄稿を活発化させたい。